

国際研究集会等一覧

〔国際研究集会〕

○第31回「東アジアにおける学芸史の総合的研究の継続的発展のために」(07年3月23日～25日)

公式言語…日本語・中国語

○第32回「創立20周年記念国際シンポジウム」

「日本文化研究の過去・現在・未来―新たな地平を開くために―」

(07年9月18日～21日)

公式言語…日本語

公開講演会

『生への存在』オギュスタン・ベルク(フランス国立社会科学高等研究院教授)

『"絞"からの脱出は可能か―富永仲基の研究法の視点から―』李御

寧(元韓国文化大臣(初代)／梨花学院名誉講座教授)

○第33回「王権と都市」(08年3月6日～8日)

公式言語…日本語・英語

公開講演会

『中国の都城のプランから見る日本の都城制の源流』王維坤(西北大学副院長・教授／日文研外国人研究員)

『都市の共和制と多数決原理―古代ギリシャのポリス形成について―』
エゴン・フライグ(ロストク大学ハインリヒ・シュリーマン古代研究所教授)

○第34回「石川淳と戦後日本」(08年6月27日～30日)

公式言語…日本語・英語

○第35回「東アジア近代における概念と知の再編成」(08年11月17日～20日)

公式言語…日本語・中国語

○第36回「いま構築されるアジアのジェンダー…人間再生産のグ

ローバルな再編成」(09年1月8日～10日)

公式言語…日本語・英語

○第37回「都市文化とは何か―文化論からの日本「発見」―」

(10年2月23日～28日)

公式言語…日本語

公開講演会

『日本の都市文化』村井康彦(京都市美術館長)

○第38回「東洋美学と東洋の思惟を問う…植民地帝国下の葛藤するアジア像」(10年11月8日～11日)

公式言語…英語

公開講演会

『東洋の導師と現代芸術家―戦後米国アートに見る役割分担―』パー

ト・ウィンザー・ルタマキ（カリフォルニア大学アーヴァイン校准教授）

『舞踏という経験―東西の違いを越えて身体を再創造する―』クリステイ・ス・グライナー（サンパウロ・カトリック大学教授）

○第39回「環境と文明…過去・現在・未来」（10年11月29日～12月3日）
公式言語…日本語・英語

公開講演会

『太陽・永遠の旅…先史時代スカンディナヴィアとドイツの宇宙観』イングリザ・スタイツ（ディスカバリー・プログラム研究員）

『アイルランドの太陽信仰』マイケル・オコーネル（アイルランド国立大学教授）

『長江文明の太陽信仰』安田喜憲（日文研教授）

『神々の起源―自然・政治・信仰―』フェクリ・ハッサン（ロンドン大学名誉教授）

『マヤ文明とアステカ文明における太陽と暦』青山和夫（茨城大学教授）

○第40回「植民地帝国日本における支配と地域社会」（11年7月13日～16日）

公式言語…日本語・韓国語・中国語

○第41回「近代と仏教」（11年10月12日～15日）
公式言語…日本語・英語

公開講演会

『平和主義と仏教の社会参加』ランジャナ・ムコパディヤ（デリー大学准教授）

『仏教と平和…再生への道』ブライアン・ヴィクトリア（アンティオク大学教授）

○第42回「帝国と高等教育―東アジアの文脈から」（12年2月10日～12日）
公式言語…日本語・韓国語・中国語

○第43回「日仏の空間語彙…概念と仕掛け」（12年5月11日～13日）
公式言語…フランス語・英語

○第44回「東アジアにおける知的交流―キイ・コンセプトの再検討」（12年11月13日～17日）

公式言語…日本語・中国語
公開講演会

『東アジアにおける概念編制史研究の現在と展望』鈴木貞美（日文研教授）

『新語と近代東アジア叙述の構築』章清（復旦大学教授）

『観念史の方法と中国研究』鄭文恵（台湾政治大学教授）

『韓国における概念史研究の現状と展望』許洙（翰林大学教授）

『近代韓国語コーパスに現れた近代新概念の様子と定着過程』李漢燮（高麗大学教授）

○第45回「怪異・妖怪文化の伝統と創造―「内」と「外」の視点から」

(13年11月25日～27日)

公式言語…日本語

公開講演会

『妖怪研究の新時代』小松和彦(日文研所長)

『妖怪を殺す「妖怪」』創作／権利／民俗 京極夏彦(小説家)

『欧米における怪異・妖怪文化研究の現状』マイケル・ディラン・フォ

スター(日文研外国人研究員)

○第46回「比較思想から見た日本仏教」(15年2月20日～21日)

公式言語…日本語

○第47回「夢と表象―その国際的・学際的展開の可能性」(15年3月1日～3日)

公式言語…日本語

公開講演会

『夢と表象研究の展望―日本古典文学の視点から』荒木浩(日文研教授)

『作曲された悪夢』伊東信宏(大阪大学教授)

『西洋美術における夢』高階秀爾(大原美術館館長／東京大学名誉教授)

○第48回「万国博覧会と人間の歴史」(15年12月17日～20日)

公式言語…日本語・英語

公開講演会

『アジアの万博』堺屋太一(作家、元国務大臣経済企画庁長官)、吳建民(博覧会国際事務局名誉議長、元駐仏中国大使、中国外交学院院长)

○第49回「心身／身心」と「環境」の哲学―東アジアの伝統的概念の再検討とその普遍化の試み―(16年2月19日～21日)

公式言語…日本語

『海外シンポジウム』

○第14回(07年10月31日～11月2日)

『日本文化の解釈…ロシアと日本からの視点』

共催…ロシア国立人文科学大学及びモスクワ国立大学

場所…モスクワ大学(モスクワロシア)

○第15回(08年10月14日～16日)

『日本・ブラジル文化交流―言語・歴史・移民』

共催…サンパウロ大学

場所…サンパウロ大学(サンパウロブラジル)

○第16回(09年11月3日～4日)

『アジア新時代の南アジアにおける日本像―インド・S.A.A.R.C諸国における日本研究の現状と必要性』

共催…ジャワハルラル・ネルー大学

○第17回(09年11月3日～4日)

『アジア新時代の南アジアにおける日本像―インド・S.A.A.R.C諸国における日本研究の現状と必要性』

共催…ジャワハルラル・ネルー大学

場所…ジャワハルラル・ネルー大学（デリーインド）

○第17回（10年10月5日～10月7日）

『日本の文化と社会の潮流』

共催…インドネシア大学

場所…インドネシア大学（デボックインドネシア）

○第18回（11年5月27日～29日）

『江南文化と日本―資料・人的交流の再発掘―』

共催…復旦大学

場所…復旦大学（上海中国）

○第19回（12年8月22日～24日）

『「日本研究」再考―北欧の実践から』

共催…コペンハーゲン大学

場所…コペンハーゲン大学（コペンハーゲンデンマーク）

○第20回（13年11月13日～15日）

『日越交流における歴史、社会、文化の諸課題』

共催…ベトナム社会科学学院

場所…ベトナム社会科学学院（ハノイベトナム）

○第21回（14年11月11日～13日）

『新領域・次世代の日本研究』

主催…国際日本文化研究センター

場所…国際日本文化研究センター（京都日本）

○第22回（15年6月30日～7月2日）

第一部『失われた20年と日本研究のこれから』

主催…国際日本文化研究センター

場所…国際日本文化研究センター（京都日本）

第二部『失われた20年と日本社会の変容』

主催…国際日本文化研究センター、ハーバード大学

場所…ハーバード大学（ボストンアメリカ）

○第23回（16年11月24日～25日）

『南太平洋から見る日本研究…歴史、政治、文学、芸術』

共催…オタゴ大学

場所…オタゴ大学（ニュージーランド）

〔日本研究会〕

○第14回（07年8月2日～6日）

場所…サンパウロ大学日本文化研究所、国際交流基金サンパウロ日本文化センター、リオデジャネイロ州立大学（ブラジル）

○第15回（08年11月21日）

『日本語教育を踏まえた日本研究への道』

場所…ハノイ大学（ベトナム）

○第16回（09年5月10日～14日）

『Current Issues on Japan Society』

場所…インドネシア大学（インドネシア）

○（09年10月22日～23日）

場所…ベトナム社会科学学院（ベトナム）

○第17回（10年10月16日～17日）

『東アジアにおける日本と台湾…日本研究の新視点を求めて』

場所…台湾中央研究院民族学研究所（台湾）

○第18回（11年8月24日～27日）

『怪異・妖怪文化の伝統と創造』

場所…タリン大学（エストニア）

○第19回（14年10月18日）

『近代日本の思想、外交、ジェンダー』

場所…ペンシルベニア大学（米国）

『海外研究交流シンポジウム』

○第3回（07年12月12日～13日）

『日文研セッション「日文研における研究状況」、中国側セッション

「中国中南部地域における日本研究の現状」』

場所…華東師範大学外国語学院（中国）

○第4回（08年3月1日～2日）

『近代日本の社会と文化』

場所…アルザス・ヨーロッパ日本学研究所（フランス）

○第5回（08年9月26日～27日）

『ロシア極東文化の中の日本』

場所…ロシア国立極東大学付属東洋大学（ロシア）

○第6回（09年6月2日～3日）

『他者になること―東西文化の変容の体験と物語』

場所…国際日本文化研究センター（日本）

○第7回（10年3月19日～20日）

『出島文書と徳川時代』

場所…国際日本文化研究センター（日本）

○第8回（11年2月25日～26日）

『文化の翻訳―北欧における日本文学研究を中心に』

場所…国際日本文化研究センター（日本）

○第9回（12年2月22日～23日）

『私の研究アプローチ』

場所…ホテル・アルマダ、ペタリンジャヤ（マレーシア）

○第10回（13年2月28日～3月1日）

『中国の日本認識と日本の中国認識』

場所…復旦大学（中国）

『シンポジウム』

○第84回（07年7月17日）

『イスラーム神学校における教育文化』

主催教員…ジェームズ・バクスター教授

○第85回（08年10月4日）

『安丸民衆史の射程―主体性・全体性・両義性―』

主催教員…磯前順一准教授

○第86回（08年10月22日）

『東アジア連帯論の系譜と国際理解』

主催教員…劉建輝准教授

○第87回（08年12月4日）

『戦間期大阪の音楽と近代』

主催教員…細川周平教授

○第88回（09年5月23日～24日）

『京都学派と「近代の超克」―近代性・帝国・普遍性―』

主催教員…鈴木貞美教授

○第89回（09年6月17日）

『日文研・パークレーの対話』

主催教員…ジェームズ・バクスター教授

○第90回（09年9月9日～14日）

『東北アジア文化史の再構築』

主催教員…劉建輝准教授

○第91回（09年11月25日～27日）

『近代東アジアにおける鍵概念民族、国家、民族主義―』

主催教員…鈴木貞美教授

○第92回（09年12月4日～5日）

『立命館アート・リサーチセンター創立10周年記念―近世春本・春画とそのコンテクスト―』

主催教員…早川聞多教授

○第93回（10年3月5日～6日）

『近代東アジア歴史研究の現状と既存資料の有効利用』

主催教員…劉建輝准教授

○第94回（10年7月16日～18日）

『東アジアにおけるトランスナショナル人文学の可能性』

主催教員…鈴木貞美教授

○第95回（10年9月11日）

『日本の歴史的時空間情報の現在』

主催教員…山田奨治准教授

○第96回（10年9月19日）

『『文藝春秋』の欧文付録「Japan To-day」の研究』

主催教員…鈴木貞美教授

○第97回（10年9月23日～25日）

『東アジアにおける知的体系の再構築―日本と中国の視座―』

主催教員…鈴木貞美教授

○第98回（10年10月30日）

『石川淳と戦後日本』合評会』

主催教員…鈴木貞美教授

○第99回（10年12月18日～20日）

『日韓相互認識―移動と視線一九一〇～二〇一〇』

主催教員…松田利彦准教授

○第100回（11年3月4日～6日）

『中国東北部（旧満州）と日本―一〇〇年関係史の整理と再編』

主催教員…劉建輝准教授

○第101回（11年3月19日～20日）

『一九五〇年代日本映画における「戦後」の構築研究』

主催教員…細川周平教授

○第102回（11年7月30日～31日）

『一九五〇年代日本映画における戦前・戦中との連続性・非連続性』

主催教員…細川周平教授

○第103回（11年9月30日～10月1日）

『万国博覧会とアジア―上海から上海へ、そしてその先へ―』

主催教員…佐野真由子准教授

○第104回（11年11月25日）

『生態・環境・資源から見る近代「満洲」…前近代からの連続・非

連続を中心に』

主催教員…劉建輝准教授

○第105回（12年1月21日）

『外地』文学の言説的ネットワーク―台湾と「満洲」の対話―』

主催教員…劉建輝准教授

○第106回（12年2月3日～4日）

『植民地朝鮮と宗教―トランスナショナルな帝国史の叙述にむけて―』

主催教員…磯前順一准教授

○第107回（12年2月13日）

『植民地裁判資料の活用―韓国大法院所蔵民事判決文を中心に』

主催教員…松田利彦准教授

○第108回（12年4月7日）

『「妙貞問答」の訳注・英訳・研究』

主催教員…ジョン・グリーン教授

○第109回（12年7月22日）

『ポスト世俗主義と公共性』

主催教員…磯前順一准教授

○第110回（12年11月10日～11日）

『近代アジアをめぐる絵ハガキメディア―帝国・表象・ネットワーク』

主催教員…稲賀繁美教授

○第111回（12年12月8日）

『近代仏教—トランスナショナルな視点から』

主催教員…末木文美士教授

○第112回（12年12月8日～9日）

『日蘭関係史をよみとく—蘭学を中心に—』

主催教員…フレデリック・クレインス准教授

○第113回（13年3月15日）

『近代日本と華北—文化交流からの再検討』

主催教員…劉建輝准教授

○第114回（13年6月16日）

『近代日本の国家観—学際的考察—』

主催教員…瀧井一博教授

○第115回（13年7月21日～22日）

『宗教と公共性—神道と宗教復興から』

主催教員…磯前順一准教授

○第116回（13年7月26日～27日）

『国際シンポジウム 転換期の伊勢』

主催教員…ジョン・グリーン教授

○第117回（13年8月26日）

『『妙貞問答』の諸問題』

主催教員…末木文美士教授

○第118回（13年11月8日～10日）

『「大名庭園」の新発見』

主催教員…白幡洋三郎教授

○第119回（14年3月5日）

『関西の映画興行史の基礎調査—『合同通信』を中心に』

主催教員…細川周平教授

○第120回（14年10月29日）

『交錯する外交と貿易—明清交替期前後の東アジア三国関係』

主催教員…劉建輝教授

○第121回（14年12月5日）

『言葉の境界をこえる／詩とその翻訳をめぐる』

主催教員…坪井秀人教授

○第122回（15年1月10日～11日）

『怪異・妖怪文化研究の現在』

主催教員…小松和彦所長

○第123回（15年2月7日～8日）

『日本古代の地域と交流』

主催教員…倉本一宏教授

○第124回（15年3月13日～15日）

『学生・教員参加による日本アニメーション・まんが研究及び教育法』

主催教員…大塚英志教授

○第125回（15年3月24日）

『記憶の改変―「私は貝になりたい」と記憶の政治学』

主催教員…瀧井一博教授

○第126回（15年9月26日～27日）

『民謡研究の今日』

主催教員…細川周平教授

○第127回（15年11月20日）

『ドイツにおける日本文学の研究』

主催教員…郭南燕准教授

○第128回（15年11月28日～29日）

『鎮魂・翻訳・記憶―声にならない他者の声を聴く』

主催教員…磯前順一教授

○第129回（16年2月9日）

『CM研究の展開と発展 日文研共同研究からの一〇年』

主催教員…山田奨治教授

○第130回（16年2月27日～28日）

『翻訳の再評価…学問を深める原動力』

主催教員…パトリシア・フィスター教授

○第132回（16年2月12日～13日）

『海賊・山賊・馬賊・愚連隊…無法者 outlaw の社会史にむけて―竹

村民郎著作集を参照点として』

主宰教員…稲賀繁美教授

○第131回（16年12月5日～6日）

『鈴木大拙を顧みる…没後50年を記念して』

主催教員…山田奨治教授

『「世界の日本研究」シンポジウム』

○第8回（07年1月12日～13日）

『コミュニケーションを考える』

主催教員…ジェームズ・バクスター教授

○第9回（08年3月14日～15日）

『日本の仏教学者…21世紀の仏教学に向けて』

主催教員…細川周平教授

○第10回（10年1月29日）

『日本語で書く―文学創作の喜びと苦しみ―』

主催教員…郭南燕准教授

○第11回（12年1月27日～28日）

『日本語で書く―非母語文学の成立』

主催教員…稲賀繁美教授

『日文研フォーラム』

○第201回（07年4月18日）

『国境を越えた日本の学校文化』モハメッド・レザ・サルカール・アラニ（アラメ・タバタバイ大学助教授／日文研外国人研究員）

○第202回（07年5月16日）

『唐代文学における日本のイメージ』張哲俊（北京師範大学比較文学研究所教授／日文研外国人研究員）

○第203回（07年6月13日）

『「気」の思想・「こころ」の文化―言語学からみた日本人とタイ人の心のあり方―』チャワローリン・サウエッタナン（チュラーロンコーン大学専任講師／日文研外国人研究員）

○第204回（07年7月25日）

『淡路島における災害と記憶の文化―荒神信仰を中心に―』シンシア・ネリ・ザヤス（フィリピン国立大学国際研究センター准教授／日文研外国人研究員）

○第205回（07年9月11日）

『宮本常一の民俗誌を通して見た日本女性と日本文化理解』チャン・ティ・チュン・トアン（ベトナム国立ハノイ国家大学助教授／日文研外国人研究員）

○第206回（07年10月10日）

『朝鮮旅行案内書に見る日本人のロマン』ペイ・ヒョンイル（カリフォ

ルニア大学サンタバーバラ校准教授／日文研外国人研究員）

○第207回（11年11月14日）

『遊興の「花」としての理想―妓生と遊女―』金榮哲（漢陽大学校教授／日文研外国人研究員）

○第208回（07年12月12日）

『中国出土の文物から見た中日古代文化交流史―和同開珎と井真成墓誌を中心として―』王維坤（西北大学教授・副院長／日文研外国人研究員）

○第209回（08年1月16日）

『懺悔・供養・修法―前近代日本仏教の心を探る―』ブライアン・小野坂・ルパート（イリノイ大学准教授／日文研外国人研究員）

○第210回（08年2月26日）

『関西のジャズ喫茶文化』マイク・モラスキー（ミネソタ大学准教授／日文研外国人研究員）

○第211回（08年3月18日）

『北極から日本へ―スウェーデン探検隊が見た明治日本―』グニラ・リンドバーク・ワダ（ストックホルム大学主任教授／日文研外国人研究員）

○第212回（08年4月23日）

『渋沢栄一と張謇―日中近代企業家に関する一つの比較―』周見（中国社会科学院世界经济政治研究所教授／日文研外国人研究員）

○第213回（08年5月14日）

『小説を通してみたグローバル時代の在日コリアン』金 貞恵（釜山外国語大学教授／日文研外国人研究員）

○第214回（08年6月11日）

『ヨーロッパ人の日本宗教へのアプローチ——エミール・ギメと日本の僧侶神主との問答——』フレデリック・ジラル（フランス国立極東学院教授／日文研外国人研究員）

○第215回（08年7月9日）

『萬葉集に見られる不思議な言葉と上代日本列島に於けるアイヌ語の分布』アレキサンダー・ヴォヴィン（ハワイ大学マノア校教授／日文研外国人研究員）

○第216回（08年9月11日）

『韓国における日本研究が語るもの』金 弼東（世明大学校副教授／日文研外国人研究員）

○第217回（08年10月9日）

『一九三〇年代の『改造』における魯迅の日本越境』王 中忱（清華大学教授／日文研外国人研究員）

○第218回（08年11月12日）

『日本における禅浄双修——黄檗宗を中心として——』ジェームズ・バスキンド（日文研プロジェクト研究員）

○第219回（08年12月10日）

『洋楽ジャンルの適応と変遷——童謡、ヒップホップとレゲエの事例研究』ノリコ・マナベ（ニューヨーク市立大学非常勤講師／日文研外来研究員）

○第220回（09年1月16日）

『志賀直哉の関西観』郭 南燕（日文研准教授）

○第221回（09年2月17日）

『内藤湖南の中国学界に与えた影響』胡 宝華（南開大学准教授／日文研外国人研究員）

○第222回（09年3月9日）

『江戸時代における無名の人々の伝記』ヴォルフガング・シャモニ（ハイドルベルグ大学教授／日文研外国人研究員）

○第223回（09年4月14日）

『メディア・ミックスの系譜——近代文学とベストセラーと視覚文化』河名サリ（マサチューセッツ大学ボストン校助教授／日文研外国人研究員）

○第224回（09年5月12日）

『変わりゆく国家と民族のすがた』趙 政男（高麗大学教授／日文研外国人研究員）

○第225回（09年7月14日）

『天皇のギフト——明治外交の一齣——』ジョン・グリーン（日文研准

教授)

○第226回(09年9月8日)

『日本の技術者とフランスの技術者—技術革新の担い手—』野原博淳(フランス国立科学研究センター上級研究員/日文研外国人研究員)

○第227回(09年10月26日)

『韓国の純情漫画と日本の少女マンガ』秋 菊姫(東京大学交流研究員)

○第228回(09年11月16日)

『世俗化から見た近代仏教—日本とベトナムとの比較—』フアム・ティ・トゥ・ザン(ハノイ国家大学・人文社会科学大学専任講師/日文研外国人研究員)

○第229回(09年12月8日)

『近世日本における開帳と秘仏の文化』許 南麟(ブリテイッシュコロンビア大学教授/日文研外国人研究員)

○第230回(10年1月19日)

『猿と一緒に踊り、鷹と共に空へ飛ぶ—バーチャル空間における文化遺産の再構築—』陳 玲(清華大学准教授/日文研外国人研究員)

○第231回(10年2月9日)

『日本文化の形成及びその特徴』蔣立峰(中国社会科学院日本研究所教授/日文研外国人研究員)

○第232回(10年3月9日)

『東アジアにおける雅楽の流れ』趙 維平(上海音楽学院教授/日文研外国人研究員)

○第233回(10年4月13日)

『見る風景・想像する風景—芭蕉の俳文をたのしむ—』エッケハルト・マイ(フランクフルト大学名誉教授/日文研外国人研究員)

○第234回(10年5月11日)

『蒋介石の人格形成と日本』黄 自進(台湾中央研究院近代史研究所研究員・教授/日文研外国人研究員)

○第235回(10年6月8日)

『訳する』というのはどういうことか?—翻訳概念史の概略—』ジェフリー・アングルズ(ウェスタン・ミシガン大学准教授/日文研外国人研究員)

○第236回(10年7月13日)

『初期の和歌と地名—英詩からの見方—』フィリップ・ハリス(オックスフォード大学クイーンズカレッジフェロー/日文研外国人研究員)

○第237回(10年9月14日)

『戦争・記憶・想像力—文禄の役(壬辰倭乱)をめぐる—』崔 官(高麗大学校教授・日本研究センター所長/日文研外国人研究員)

○第238回（10年10月12日）

『海を渡った日本の教育―戦前期ブラジルにおける日本の教育文化の越境と再創―』根川幸男（ブラジリア大学准教授／日文研外国人研究員）

○第239回（10年11月9日）

『日本現代批評と韓国的美』呉 京煥（釜山大学校教授／日文研外国人研究員）

○第240回（10年12月14日）

『小田実の思想と文学―全体小説を短編で書くこと―』ローマン・ローゼンバウム（シドニー大学名誉アソシエイト／日文研外国人研究員）

○第241回（11年1月18日）

『亡命ロシア人が見た近代日本』アイーダ・スレイメノヴァ（極東国立総合大学准教授／日文研外国人研究員）

○第242回（11年2月15日）

『時空を超える弥次喜多の笑い―小説から浮世絵まで―』康 志賢（全南大学校副教授／日文研外国人研究員）

○第243回（11年3月9日）

『萩原朔太郎と近代日本―時代のパイオニア―』徐 載坤（韓国外国語大学校副教授／日文研外国人研究員）

○第244回（11年4月26日）

『戦後映画における孤児の表象』ミツヨ・ワダ（マルシアーノ（カルトン）大学准教授／日文研外国人研究員）

○第245回（11年5月17日）

『関東都督府の満州調査』王 鉄軍（遼寧大学日本研究所副研究員／日文研外国人研究員）

○第246回（11年6月14日）

『朱舜水と日本』韓 東育（東北師範大学教授・院長／日文研外国人研究員）

○第247回（11年7月12日）

『竹島から「韓流」まで―日本と韓国の「地政心理」の出会い―』ロー・ダニエル（社団法人東アジア平和投資プログラム代表／日文研外国人研究員）

○第248回（11年9月13日）

『ベトナムにおける日本語教育と日本研究の現状』ゲン・ティ・タン・タム（ハノイ貿易大学上級講師／ベトナム科学技術協会技術開発研究所副所長／日文研外国人研究員）

○第249回（11年10月11日）

『美術とコロニアリズムの掛け合い―国策としての偽満州国第一回美術展覧会について―』王 确（東北師範大学教授／日文研外国人研究員）

- 第250回（11年11月8日）
『近代日本の最盛期…明宮嘉仁（のち大正天皇）の生涯を通して』フレデリック・リチャード・ディキンソン（ペンシルベニア大学准教授／日文研外国人研究員）
- 第251回（11年12月13日）
『韓国における「親日派」言説に関する一つの考察』金 哲（延世大学校教授／日文研外国人研究員）
- 第252回（11年1月17日）
『ベトナムの習慣と信仰を古典文学に探る』グエン・ティ・オワイン（ベトナム社会科学学院准教授／日文研外国人研究員）
- 第253回（12年2月14日）
『天寿の域にいたる道―貝原益軒の『養生訓』を中心に―』劉 克申（上海对外貿易学院教授／日文研外国人研究員）
- 第254回（12年3月13日）
『帝誅しと帝諫めの物語―狩野重信筆『帝鑑図・咸陽宮図屏風』を読む―』楊 曉捷（カルガリー大学教授／日文研外国人研究員）
- 第255回（12年4月10日）
『東アジア近代史における「記憶と記念」』都 珍淳（昌原大学校教授／日文研外国人研究員）
- 第256回（12年5月15日）
『近代日中知識人の自己認識―思想交流史からのアプローチ―』徐 興慶（台湾大学研究所教授／日文研外国人研究員）
- 第257回（12年6月12日）
『日本映画に於ける原型的な表現方法』アンドリヤナ・ツヴェトコビッチ（欧州映画アカデミーESSRAパリースコピエーニューヨーク客員教授／日文研外来研究員）
- 第258回（12年7月10日）
『中国式』日本研究の実像と虚像』刘 岳平（南開大学教授／日文研外国人研究員）
- 第259回（12年9月11日）
『中国文化への誘い―漢字からのアプローチ』金 哲会（北京語言大学教授／日文研外国人研究員）
- 第260回（12年10月9日）
『戦国の宗教文化と宣教師―大航海時代における異教の位置づけを考える―』シルビオ・ヴィータ（京都外国語大学教授）
- 第261回（12年11月6日）
『汎ヨーロッパ』から「美の国」へ―クレーデンホーフ・カレルギーと日本―』バルト・ガーンズ（フィンランド国際関係研究所研究員）
- 第262回（12年12月11日）
『日本の中世文化を考える―上流階層における唐物趣味や禅趣味を中心に―』韋立新（広東外語外贸大学教授／日文研外国人研究員）

○第263回（13年1月15日）

『スリランカにおける演劇史と日本の伝統演劇からの影響について』
クラティラカ・クマラーシンハ（ケラニア大学教授／日文研外国人
研究員）

○第264回（13年2月12日）

『中日文化異同論の推移——近代以降の日本と欧米の学界を中心に』
張翔（復旦大学教授／日文研外国人研究員）

○第265回（13年3月12日）

『日本演劇における「非人間的なるもの」との遭遇——霊・動物・
テクノロジー』マーク・ユーディ・ポールトン（ヴィクトリア大学
教授／日文研外国人研究員）

○第266回（13年4月9日）

『武術伝授に見る東西両世界』カセム・ズガリ（フランス国立東洋
言語文化大学フランス日本協会研究員／日文研外国人研究員）

○第267回（13年5月14日）

『中世日本に於ける密教僧と神祇崇拜 伊勢、三輪山等を中心とす
る両部神道説について』アンナ・アンドレーワ（ワシントン大学カー
ル・ヤスベルス・センターアカデミックフェロー／日文研外国人研
究員）

○第268回（13年6月11日）

『耳塚の「靈魂」をどう考えるか』魯成煥（蔚山大学校人文大学

教授／日文研外国人研究員）

○第269回（13年7月9日）

『ヨーロッパ貴族と日本美——知られざる一七世紀のジャポニスム』
ウィーベ・カウテルト（ソウル国立大学准教授／日文研外国人研究
員）

○第270回（13年9月20日）

『春画を語る・語る春画——春画を西洋の大学で教える諸問題——』ハ
ンス・トムセン（チューリッヒ大学教授／日文研外国人研究員）

○第271回（13年10月8日）

『ブラジルの日本語文学』エドワード・トーマス・マック（ワシン
トン大学国際交流基金フェロー／日文研准教授）

○第272回（13年11月5日）

『伝統と観光を考える——日本の来訪神行事を事例として——』マイケ
ル・ディラン・フォスター（インディアナ大学准教授／日文研外国
人研究員）

○第273回（13年12月10日）

『近代能楽史と植民地』徐禎完（翰林大学校教授／日文研外国人
研究員）

○第274回（14年1月21日）

『他者の風景——一九世紀西洋絵入り新聞から見る東アジア』陳其松
（日本学術振興会特別研究員／日文研外来研究員）

○第275回（14年2月12日）

『吾妻鏡』の謎——清末中国へ渡った明治の性科学』唐権（華東師範大学准教授／日文研外国人研究員）

○第276回（14年3月11日）

『Kawaii』をめぐる表象——その形成と展開』高馬京子（ミコラスロメリス大学准教授／日文研外国人研究員）

『ポピュラー・カルチャーと世代間ギャップ——ヨーロッパにおける日本研究の将来は如何に』ハラルド・フース（ハイデルベルク大学教授／日文研外国人研究員）

『日本ファッションは「前衛」か。——Future Beauty 展の現場から』深井晃子（京都服飾文化研究財団理事、チーフ・キュレーター）

○第277回（14年4月8日）

『森有礼が見た一九世紀半ばのロシア帝国——虚像と実像——』マリーナ・コヴァルチュク（極東連邦大学助教／日文研外国人研究員）

○第278回（14年5月13日）

『中日の知をつないだ上海内山書店』秦剛（北京外国語大学北京日本学研究センター副教授／日文研外来研究員）

○第279回（14年6月10日）

『宗教と世俗の間——祇園祭とサルデーニャの祭をめぐる』エリザベッタ・ポルク（ライプティッヒ大学地域研究センター上級研究員兼講師／日文研外国人研究員）

○第280回（14年7月8日）

『仏教社会主義について——妹尾義郎と新興仏教青年同盟——』ジェームス・マーク・シールズ（バックネル大学准教授／日文研外来研究員）

『ナチスと日本宗教』ブライアン・アンドレー・ヴィクトリア（オックスフォード大学付属仏教研究所研究員／日文研外来研究員）

○第281回（14年9月16日）

『後藤新平研究——中国の視点から』王鍵（中国社会科学院近代史研究所研究員／日文研外国人研究員）

○第282回（14年10月14日）

『日本が自ら日本を世界に紹介した最初の本にみる日本の美意識について』エミリア・シャロンドン（トゥールーズ・ル・ミライユ大学講師／日文研外国人研究員）

○第283回（14年11月27日）

『日本古典文学における隠喩の考察——主に歌ことば、翻訳、隠喩の展開について』ステイーナ・イエルブリン（日文研外来研究員）

○第284回（14年12月12日）

『タブーを破る——春画研究・展示の意義』アンドリュ・ガストル（ロンドン大学SOAS教授／日文研外国人研究員）

『日本の春画をイギリスはどう見たか』矢野明子（ロンドン大学SOASジャパン・リサーチ・センターリサーチ・アシシエイト／日

文研外来研究員)

『大英博物館春画展を受けて―日本側のリアクション』石上阿希(立命館大学衣笠総合研究機構専門研究員)

○第285回(15年1月13日)

『グローバル時代における日本大衆文化とその変容―大河ドラマ分析を通じて』朴 順愛(湖南大学校教授/日文研外国人研究員)

○第286回(15年2月10日)

『仏教と平和主義―日本仏教の挑戦』ランジャナ・ムコバディヤーヤ(デリー大学准教授/日文研外国人研究員)

○第287回(15年3月10日)

『私の日本映画研究とソフトパワー外交』アンドリヤナ・ツヴェトコビッチ(駐日マケドニア共和国特命全權大使/元日文研外来研究員)

○第288回(15年4月14日)

『日本をめぐる認識変容―高度成長期から「失われた二〇年」を通じて』アンドルー・ゴードン(ハーバード大学教授/日文研外来研究員)

研究員)

○第289回(15年5月12日)

『蒋介石の日本像』黄 自進(中央研究院近代史研究所/日文研外国人研究員)

○第290回(15年6月11日)

『火の女神と神になった男―一六世紀の井戸茶碗を中心に―』朴

正一(釜山外国語大学校教授/日文研外国人研究員)

○第291回(15年7月7日)

『おんなもの―日本の伝統芸能における「女性」の登場とその表象をめぐる』ガリア・トドロヴァ・ペトコヴァ・ガブロフスカ(ブルガリア国立演劇映画芸術アカデミー客員講師/日文研外来研究員)

○第292回(15年9月15日)

『何でそんなに愛され、そんなに憎まれるのか―文学キャラクターとしてのスサノオノミコト』リチャード・トランス(オハイオ州立大学教授/日文研外国人研究員)

○第293回(15年10月13日)

『法と教養と文化の基礎―田中耕太郎にならって』ケビン・ドーク(ジョージタウン大学教授/日文研外国人研究員)

○第294回(15年11月17日)

『鉄道から見た東アジアの歴史』李 容相(又松大学教授/日文研外国人研究員)

○第295回(15年12月1日)

『日中両国はどう付き合うべきか―王正廷の「王道・霸道」論から考える』高文勝(天津師範大学教授/日文研外国人研究員)

○第296回(16年1月5日)

『日本美術に見るユーモア―河鍋曉斎の動物戯画と曉斎が笑った明治の西洋化』アグネセ・ハイジマ(ラトビア大学准教授/日文研

外来研究員)

○第297回 (16年2月19日)

『ロシア文学における日露戦争の記憶——「日本」の表象を中心に』
イーゴリ・ポトーエフ (ブリヤート国立大学准教授／日文研外国人研究員)

○第298回 (16年3月8日)

『近代の宿命』と「保守」——福田恆存の保守主義を考える』張寅性 (ソウル大学校教授／日文研外国人研究員)

○第299回 (16年4月12日)

『人形浄瑠璃文楽——伝統演劇の魅力と苦難』ボナヴェントゥーラ・ルベルティ (ヴェネツィア カ・フォスカリ大学教授／日文研外国人研究員)

○第300回 (16年5月10日)

『獅子舞がつなぐ東アジア』李 応寿 (世宗大学校韓日芸能研究所所長／日文研外国人研究員)

○第301回 (16年6月14日)

『古くて新しいもの』——ベトナム人の俳句観から日本文化の浸透を探る』グエン・ヴァー・クイン・ニュー (在ホーチミン日本国総領事館広報文化班アシスタント／日文研外国人研究員)

○第302回 (16年7月12日)

『中国近代心理学の先駆け、陳大斉の日本留学とそれから——小秀

才から教育者へ』龔 穎 (中国社会科学院哲学研究所研究員／日文研外国人研究員)

○第303回 (16年9月13日)

『変容するヤマト——『古事記』の「天皇」を考える——』マラル・アンダソヴァ (カザフ国立女子教育大学研究員／日文研外国人研究員)

○第304回 (16年10月4日)

『木下恵介映画の見どころ——忘れられた日本のこころ』マッツ・カールソン (シドニー大学シニア講師／日文研外来研究員)

○第305回 (16年11月15日)

『セルビア・アヴァンギャルド詩と『日本の古歌』』山崎佳代子 (詩人／ベオグラード大学教授／日文研外国人研究員)

○第306回 (16年12月13日)

『北朝鮮の核問題と中国の新たな朝鮮半島政策』姜 龍範 (天津外国語大学教授／日文研外国人研究員)

○第307回 (17年1月10日)

『近世前期の学識と実学を再考する——京都の博学者、馬場信武を中心に』マティアス・ハイエク (パリ・デイドロ大学准教授／日文研外国人研究員)

○第308回 (17年2月10日)

『京都から考える「東アジア安全共同体」——「戦争」「災害」「歴史」

をキーワードとして』 宋 浣範（高麗大学 副院長／日文研外国人研究員）

〔木曜セミナー〕

○第144回（07年4月19日）

『ネットワークの現場から見た知の共有と独占』 新井菜穂子（日文研准教授）

○第145回（07年5月24日）

『日本の宗教学』 再考―学説史から学問史へ』 磯前順一（日文研准教授）

○第146回（07年6月21日）

『知的感性のゆくえ―IMOVIES（パソコンで作成できる映画）の性格と文化的意義』 栗山茂久（ハーバード大学教授／日文研外来研究員）

○第147回（07年7月19日）

『柿本人麻呂と中国文学』 呂莉（中国社会科学院外国文学研究所助教／日文研外国人研究員）

○第148回（07年10月18日）

『考古学GISの実践』 宇野隆夫（日文研教授）

○第149回（07年11月15日）

『改変された平城京―史書に書かれなかった事実―』 千田稔（日文研教授）

○第150回（08年1月24日）

『東アジア近代文化史の問い直しにむけて―北米滞在帰朝報告』 稲賀繁美（日文研教授）

○第151回（08年2月21日）

『明治憲法史と伊藤博文』 瀧井一博（日文研准教授）

○第152回（08年4月17日）

『ジャズ喫茶研究の諸問題―歴史観から方法論まで』 マイク・モラスキー（日文研外国人研究員）

○第153回（08年5月22日）

『コルマール（仏）・セミナー（二〇〇八年三月）を振り返って』 細川周平（日文研教授）、稲賀繁美（日文研教授）、瀧井一博（日文研准教授）、磯前順一（日文研准教授）

○第154回（08年6月19日）

『『海賊版』の思想―一八世紀英国の永久コピーライト闘争』について』 山田奨治（日文研准教授）、池内恵（日文研准教授）

○第155回（08年10月16日）

『日韓関係にとつての『韓流』ブームと東アジアにおけるソフトパワーの争い』 アリソン・トキタ（日文研外国人研究員）

○第156回（08年11月13日）

『書評「遠きにありてつくるもの―日系ブラジル人の思い・ことば・芸能―」』 松田利彦（日文研准教授）、細川周平（日文研教授）

- 第157回（08年12月18日）
『書評』春画の見かた——〇のポイント——山田奨治（日文研教授）、
早川聞多（日文研准教授）
- 第158回（09年1月22日）
『書評』牛村圭、日暮吉延著『東京裁判を正しく読む』（文春新書・
六六〇）瀧井一博（日文研准教授）、牛村圭（日文研教授）
- 第159回（09年2月19日）
『山王祭りの原点…日吉神社における近代化の一齣』ジョン・ブリー
ン（日文研准教授）
- 第160回（09年4月16日）
『書評』光田和伸著『恋の隠し方』（青草書房、二〇〇八年七月）
早川聞多（日文研教授）
- 第161回（09年6月18日）
『私はこうして生きてきました——研究生活、今日までそして明日か
ら——倉本一宏（日文研教授）
- 第162回（09年7月16日）
『仏教写本を見る愉しみ』末木文美士（日文研教授）
- 第163回（09年9月17日）
『軍人はなぜ政治化したのか——日本陸軍の場合——戸部良一（日文
研教授）
- 第164回（09年10月15日）
『書評』猪木武徳著『大学の反省』（NTT出版二〇〇九年四月）を
読む』猪木武徳（日文研所長）
- 第165回（09年11月12日）
『日文研二五年史の編纂——その中間報告——白幡洋三郎（日文研教
授）、小松和彦（日文研教授）、瀧井一博（日文研准教授）
- 第166回（09年12月17日）
『人間性のかけらを求めて——石井部隊や九大生体解剖事件における
個人的責任を考える——郭南燕（日文研准教授）
- 第167回（10年1月21日）
『情報という分野』森洋久（日文研准教授）
- 第168回（10年2月18日）
『九〇—四世紀東シナ海交流の素描』榎本渉（日文研准教授）
- 第169回（10年4月22日）
『書評』宇野隆夫編著『ユーラシア古代都市・集落の歴史空間を読む』
（二〇一〇年三月勉強出版）宇野隆夫（日文研教授）
- 第170回（10年6月17日）
『ヘフィダシ』からのぞく日本中世文学の世界——夢とことばの表現論
のために——荒木浩（日文研教授）
- 第171回（10年7月22日）
『中国近世思想史の再構成——拙著『思想としての中国近世』を素材

として―』伊東貴之（日文研教授）

○第172回（10年9月16日）

『安政四年十月二十一日、米国使節の登城・將軍拝謁をめぐって―』幕末―について考えるために―』佐野真由子（日文研准教授）

○第173回（10年11月18日）

『書評 フレデリック・クレインス著『十七世紀のオランダ人が見た日本』（臨川書店、二〇一〇年七月）』フレデリック・クレインス（日文研准教授）

○第174回（10年12月16日）

『『北方領土』問題をめぐる歴史的省察』笠谷和比古（日文研教授）

○第175回（11年1月20日）

『書評 鈴木貞美著『文藝春秋』とアジア太平洋戦争へ東アジア叢書』（武田ランダムハウスジャパン二〇一〇年五月）』鈴木貞美（日文研教授）

○第176回（11年2月17日）

『書評 榎本渉著『僧侶と海商たちの東シナ海』（講談社選書メチエ二〇一〇年一〇月）』榎本 渉（日文研准教授）

○第177回（11年4月21日）

『日文研二五年史座談会Ⅲ―国際交流の展望―』猪木武徳（日文研所長）、細川周平（日文研教授）、山田奨治（日文研教授）、劉建輝（日文研准教授）、磯前順一（日文研准教授）、佐野真由子（日文

研准教授）、テモテ・カーン（日文研助教）

○第178回（11年5月19日）

『日文研二五年史座談会Ⅳ―文献、データベース、出版―』宇野隆夫（日文研教授）、白幡洋三郎（日文研教授）、末木文美士（日文研教授）、早川聞多（日文研教授）、パトリシア・フィスター（日文研教授）、ジョン・グリーン（日文研教授）、フレデリック・クレインス（日文研准教授）、光田和伸（日文研准教授）

○第179回（11年6月16日）

『新たな文明原理を求めて―東日本大震災と原発事故に思う』安田喜憲（日文研教授）

○第180回（11年7月21日）

『世界記憶遺産に推薦が決まった「御堂関白記」自筆本（一二世紀）の裏に「後深心院関白記」（一四世紀）を写した近衛信尹（一六世紀）』倉本一宏（日文研教授）

○第181回（11年9月22日）

『可視化される「帝国」・パッケージされる「外地」―日文研所蔵外地関連地図、絵葉書について―』劉建輝（日文研准教授）

○第182回（11年11月17日）

『書評 山田奨治著『日本の著作権はなぜこんなに厳しいのか』（人文書院二〇一一年九月）』山田奨治（日文研教授）

○第183回（11年12月22日）

『書評 ジョン・ブリーン著『儀礼と権力 天皇の明治維新』（平凡社二〇一一年八月）』ジョン・ブリーン（日文研教授）

○第184回（12年1月19日）

『書評 小松和彦著『いざなぎ流の研究…歴史のなかのいざなぎ流太夫』（角川学芸出版二〇一一年九月）』小松和彦（日文研副所長）

○第185回（12年2月16日）

『世界を旅する学問—トランスナショナルな日本研究に向けて—』

磯前順一（日文研准教授）

○第186回（12年4月19日）

『書評 末木文美士著『哲学の現場…日本で考えるということ』（二〇一二年一月トランスビュー）』末木文美士（日文研教授、細川周平（日文研教授）、フレデリック・クレインス（日文研准教授）

○第187回（12年5月24日）

『京都の洋館と庭、そして権力の館？—白幡洋三郎『庭を読み解く』、井上章一『京都洋館ウォッチング』刊行記念トークイベント—』白幡洋三郎（日文研教授）、井上章一（日文研教授、御厨貴（日文研客員教授）

○第188回（12年6月21日）

『アーカイブの活用と連想—文化遺産オンラインと実業史錦絵絵引の紹介—』丸川雄三（日文研准教授）

○第189回（12年7月19日）

『北朝鮮を訪ねて—「凍土の共和国」に非ず、「地上の楽園」に非ず』松田利彦（日文研准教授）

○第190回（12年9月20日）

『図書館の「はたらき」は国を越えて届くか—『本棚の中のニッポンから—』江上敏哲（日文研資料課資料利用係長）

○第191回（12年10月18日）

『陸上競技をどう語るか…日本のオリンピック参加一〇〇年を機に』

牛村圭（日文研教授）

○第192回（12年11月22日）

『文の面について』マルクス・リュッターマン（日文研准教授）

○第193回（12年12月20日）

『座談会』日文研二五年史編纂を振り返る』小松和彦（日文研所長）、白幡洋三郎（日文研教授、瀧井一博（日文研准教授、山内直樹（山内編集事務所代表）

○第194回（13年1月24日）

『書評 劉建輝著『日中二百年—支え合う近代』（二〇一二年東アジア叢書）』劉建輝（日文研准教授）、郭南燕（日文研准教授）、松田利彦（日文研准教授）

○第195回（13年2月21日）

『二〇世紀初頭の俳句・能の海外発信—「二重国籍」詩人・野口

米次郎のもたらしたものの』堀まどか（日文献機関研究員）、三原芳秋（同志社大学准教授）

○第196回（13年4月18日）

『古墳はどのような「場所」に築造されたのか―三〇六世紀の前方後円墳の立地と眺望分析から―』寺村裕史（日文献特任准教授）

○第197回（13年5月23日）

『書評 倉本一宏著『藤原道長の日常生活』（二〇一三年 講談社現代新書）倉本一宏（日文献教授、井上章一（日文献副所長）、荒木浩（日文献教授）

○第198回（13年6月20日）

『テレビ時代の日本映画とその変革の諸相』北浦寛之（日文献助教）

○第199回（13年7月18日）

『日系ブラジル移民文学』を上梓して』細川周平（日文献教授）、根川幸男（日文献外国人研究員）

○第200回（13年9月19日）

『融通念仏縁起』の研究―物語絵にみる日本中世の信仰世界―』徳永誓子（日文献機関研究員）

○第201回（13年10月17日）

『大英博物館の春画展開催の報告』早川聞多（日文献教授）

○第202回（13年11月21日）

『スマート・グリッド―エネルギーのゆくえ』森洋久（日文献准教授）

○第203回（13年12月19日）

『旧植民地関係資料の行方―日本の文書破棄とGHQによる文献文書接収』井村哲朗（日文献特任教授、熱田見子（外交史料館外務事務官）

○第204回（14年1月23日）

『ザ・タイガースとボクらの時代―磯前順一』『ザ・タイガース 世界はボクらを待っていた』（集英社新書）を読む』井上章一（日文献副所長）、細川周平（日文献教授、磯前順一（日文献准教授）

○第205回（14年2月20日）

『植民地朝鮮の表象―朝鮮写真絵葉書と官展入選作にみるイメージの相関性』朴美貞（日文献機関研究員）

○第206回（14年4月17日）

『映画式まんが家入門』大塚英志（日文献教授、中島千晴（漫画家）

○第207回（14年5月22日）

『教育哲学としてのバタイユ思想』宮崎康子（日文献特任助教）

○第208回（14年6月19日）

『日本映画の音響理論―『映画音響論 溝口健二映画を聴く』を中心に』長門洋平（日文献機関研究員）

○第209回（14年7月17日）

『笠谷和比古著『武士道 侍社会の文化と倫理』（二〇一四年、NTT出版）をめぐって』笠谷和比古（日文献教授）、伊東貴之（日文

研教授)、ジョン・グリーン(日文研教授)

○第210回(14年9月18日)

『ギリシャでの日本学の発展』ステイリアノス・パパレクサンドロ
プロス(アテネ大学教授/日文研外来研究員)

○第211回(14年10月16日)

『KATSURA-II―古地図 Google Mapの試み―』森 洋久(日文研
准教授)

○第212回(14年11月20日)

『国文学者の戦中戦後―榊原美文の場合』坪井秀人(日文研教授)

○第213回(14年12月18日)

『帝国大学とは何だったのか』瀧井一博(日文研教授)

○第214回(15年1月22日)

『文化資料のデジタル化と情報発信』寺村裕史(日文研特任准教授)

○第215回(15年2月19日)

『平安時代の内裏と平安京』中町美香子(日文研機関研究員)

○第216回(15年4月16日)

『現代建築を考える―合評 井上章一『現代の建築家』(ADAエディ
タトリーキョー、二〇一四年)』井上章一(日文研副所長、稲賀繁美
(日文研教授、佐野真由子(日文研准教授)

○第217回(15年5月21日)

『雑誌『世界の日本研究』の回顧と展望』郭 南燕(日文研准教授)、

瀧井一博(日文研教授)、松田利彦(日文研教授)、山田奨治(日文
研教授)、劉 建輝(日文研教授)

○第218回(15年6月18日)

『日米同盟研究―歴史と理論』楠 綾子(日文研准教授)

○第219回(15年7月16日)

『日本古典籍の図像/図版データベース構築にむけて』石上阿希(日
文研特任助教)

○第220回(15年9月17日)

『倉本一宏著『平安朝 皇位継承の闇(狂気)の天皇』(KADOKA
WA、二〇一四年)と『旅』の誕生(東海道の「旅」)』(河出書房
新社、二〇一五年)を斬る!』倉本一宏(日文研教授)、牛村 圭(日
文研教授)、光田和伸(日文研准教授)

○第221回(15年10月22日)

『小泉鉄、〈台湾〉を表象する』杉田智美(日文研機関研究員)

○第222回(15年11月19日)

『平戸オランダ商館文書が語るもの』フレデリック・クレインス(日
文研准教授)、シンティア・フィアレ(ライデン大学史学研究所研
究員/日文研外来研究員)

○第223回(15年12月17日)

『万国博覧会から人間の歴史を考える』佐野真由子(日文研准教授)、
井上章一(日文研副所長、中牧弘允(吹田市立博物館館長)

○第224回（16年1月21日）

『表具ができるまで』佐々木弘明（京表具翠光堂主人（伝統工芸士））

○第225回（16年2月18日）

『上方演芸の近代史と現状』古川綾子（日文研特任助教）

○第226回（16年4月21日）

『キリシタン文学の継承…宣教師の日本語文学』郭 南燕（日文研准教授）、井上章一（日文研教授）

○第227回（16年5月26日）

『稲賀繁美『接触造形論』（名古屋大学出版会、二〇一六）をめぐる』稲賀繁美（日文研副所長・教授）、細川周平（日文研教授）、宮崎康子（日文研技術補佐員）

○第228回（16年6月23日）

『『日本研究』編集の現場から』坪井秀人と『日本研究』編集の仲間たち

○第229回（16年7月21日）

『アメリカ大統領制の歴史・現在・未来―制度分析の観点から』待鳥聡史（京都大学大学院法学研究科教授）、楠綾子（日文研准教授）

○第230回（16年9月23日）

『藩政を比較する』磯田道史（日文研准教授）

○第231回（16年10月23日）

『ミッシング・ヒストリー』ジェームス・E・ケテラー（シカゴ大

学教授）、磯前順一（日文研准教授）

○第232回（16年11月18日）

『江戸期における仏像の妖怪化』今井秀和（日文研機関研究員）

○第233回（16年11月18日）

『コロンブスの卵―資料の見せ方』石川 肇（日文研助教）

○第234回（17年1月19日）

『来たるべき日文研 高等研究所とは？ コンソーシアムとは？』マーク・E・リンシカム（京都アメリカ大学コンソーシアム所長）、マティアス・ハイエク（パリ・デイドロ大学東アジア言語文化学部日本学科准教授／日文研外国人研究員）、松田利彦（日文研教授）、磯前順一（日文研教授）

○第235回（17年2月16日）

『南北朝時代の戦術と武士』呉座勇一（日文研助教）

[Nichibunken Evening Seminar]

○第118回（07年4月5日）

『Celebrating Work in Pictures: A New Subject for Edo Society』メアリー・エリザベス・ベリー（カリフォルニア大学バークレー校教授／日文研外来研究員）

○第119回（07年5月10日）

『On geidan: an anthropological approach』井口かをり（日文研海外研

究交流室プロジェクト研究員)

○第120回 (07年6月7日)

『Shells in Prehistoric Societies from West to East: A Preliminary Approach』イウリア・カラリィヤナコプー(アテネ大学教授／日
文研外国人研究員)

○第121回 (07年7月5日)

『Hinduism and Shintoism: A Comparative Study』ラジヘンドラ・トマー
ル(ジャワハルラル・ネルー大学客員教授／日文研外国人研究員)

○第122回 (07年9月6日)

『石干見 (Ishihimi) - Studies on the Relics of Maritime Civilizations in
the Visayas, Pscadores, and the Ryukyus』シンシン・ネリ・ギヤス(フィ
リピン国立大学国際研究センター准教授／日文研外国人研究員)

○第123回 (07年10月4日)

『The Science of Karma: The Congruence of Buddhism and 19th Century
Evolutionary Thought in the Writings of Lafcadio Hearn』シホームズ・
バスキン(日文研海外研究交流室プロジェクト研究員)

○第124回 (07年12月6日)

『Music on the Periphery of Modan Raitu: Traces of Music-making among
the Okinawan and Korean Communities of Interwar Osaka』ホー・デ
フェランディ(ニュージーランド大学助教授)

○第125回 (08年2月7日)

『Visualizing an Ancient Land Near, Yet Far: Imperialist Nostalgia and
the Production of Tourist Images in Colonial Korea』ペ・ユンギル(カ
リフォルニア大学サンタバーバラ校准教授／日文研外国人研究員)

○第126回 (08年3月6日)

『Archives of Western Social Scientists in Japanese Collections, with
Special Reference to the Kansai Area』シル・ジャン・ビエール・カ
ンパニョーロ(フランス国立科学研究センター研究員・准教授／日
文研外国人研究員)

○第127回 (08年4月3日)

『An Arctic Passage to the Far East: The Visit of the Swedish Vega
Expedition to Japan in 1879』グニラ・リンドバークワダ(ストック
ホルム大学主任教授／日文研外国人研究員)

○第128回 (08年5月8日)

『Rereading Those Lines: Rethinking Japanese Buddhism through
Examining Bunin (Appointments Works)』ブライアン・オルバート(日
文研外国人研究員)

○第129回 (08年6月5日)

『The Tickish Triangle: Reflections on Nationalisms in Japan, China and
Taiwan since the 1990s』汪 宏倫(日文研外国人研究員)

○第130回 (08年7月3日)

『Bad Boy of the Gods: Readings from a Translation-in-Progress of Aratama, Ishikawa Jun's Novel of 1964』ウイリアム・タイラー (日文哲学外国人研究員)

○第131回 (08年10月2日)

『The Method of Tsuguru Shamans in Osabe Hideo's Literature: Towards a New Relation between Japan and Asia』郭 南燕 (日文哲学教授)

○第132回 (08年11月6日)

『The Heart's Home Town: Traditional Folk Song in Modern Japan』デビッド・ボーズ (日文哲学外国人研究員)

○第133回 (08年12月4日)

『The Adaptation of Western Genres in Japanese Popular Music: Evolution of Musical Style and Text Setting in Children's Songs and Hip-Hop』ノリコ・マナブ (日文哲学外来研究員)

○第134回 (09年1月15日)

『The Theatre of Species: Race and Animals in Wartime Animation』トーマス・リマール (マツギル大学教授)

○第135回 (09年2月5日)

『Shamanism in Context: Itako (Northern Japan) and Mikishi (Democratic Republic of Congo)』フェリックス・カプトゥ (日文哲学外国人研究員)

○第136回 (09年3月12日)

『Past and Present: Stone Bead Making in India』クルディーン・バーン (日文哲学外国人研究員)

○第137回 (09年4月2日)

『Cramming the Canon: Contemporary Gakushū Manga and the Possibilities of Edutainment』河名サリ (日文哲学外国人研究員)

○第138回 (09年5月14日)

『What is Japanese Performing Arts? The Process of Constructing an Image』マツシオ・マルティネス (日文哲学外国人研究員)

○第139回 (09年6月4日)

『Sakabe Megumi, A Scenic Philosophy』シゲル・タリシエ (日文哲学外国人研究員)

○第140回 (09年7月2日)

『Soldiers and Society in Japan: Exploring the Issues』セオドア・F・シタ (日文哲学外国人研究員)

○第141回 (09年9月3日)

『Multiproxy Evidence of Tropical Holocene Climate Variability and Anthropogenic Interference from a Lake Record in Bali』シン・リ (日文哲学外来研究員)

○第142回 (09年10月1日)

『Monsters and Micronesia Japanese Conceptualizations of the South

Seas as a Supernatural Space』マーク・オンブレロ（総合研究大学院大学大学院生）

○第143回（09年11月5日）

『Architecture & Photography: Longing for the Past and Reconstructing the Future』マツリエール・ラヴィック（日文研外国人研究員）

○第144回（09年12月3日）

『Kume Kunitake and Kume Keiichiro: Father and Son, Advocators of Western Science and Art』ヨナ・シデラー（日文研外国人研究員）

○第145回（10年2月4日）

『Ideals of Feminine Beauty: Portrayal in Ukiyo-e and Indian Miniature Painting』アヌ・シンダル（日文研外国人研究員）

○第146回（10年3月4日）

『The “Eyes” of the Police and a Historiographic Problem: The 1925 Taipei Police Exhibition』蔡 慧玉（日文研外来研究員）

○第147回（10年4月8日）

『Hideyoshi's Invasion of Korea and the Diplomacy of Survival 1596-98』

許 南麟（日文研外国人研究員）

○第148回（10年5月13日）

『Voices from Nara at the Chinese Court: Poetry and Diplomacy in Eighth-century East Asia』ウィベケ・デネッケ（日文研外国人研究員）

○第149回（10年6月10日）

『The Function of Place Names in Early Waka: Some Comparisons with English, Welsh and Anglo-Welsh Poetry』フィリップ・ハリス（日文研外国人研究員）

○第150回（10年7月1日）

『Rethinking Shonen'ai: Uses of History in Edogawa Ranpo's Writing about the Love of Boys』シムフリー・マンズルス（日文研外国人研究員）

○第151回（10年9月2日）

『Buddhist Chaplaincy during the Russo-Japanese War』マイカ・アウエルバッハ（日文研外来研究員）

○第152回（10年10月14日）

『Modern Japanese Literature and Russian Poet-immigrants: A Case of Eastern Diaspora』アイーダ・スレイメノヴァ（日文研外国人研究員）

○第153回（10年12月9日）

『Japanese Studies in Bulgaria: The 20th Anniversary of the “Japanese Studies” Major at St. Kliment Ohridski University of Sofia』ボイカ・シマゾヴァ（日文研外国人研究員）

○第154回（11年2月3日）

『Chinese and Japanese Ghost Drama: A Comparative Study with Special Reference to Japanese Noh Plays and Chinese Zaju (Variety Plays)』趙

暁 寶（日文研外来研究員）

○第155回（11年3月3日）

『Writing in Between Language and Culture: Some Cases in Contemporary Japanese Literature』ノリコ・トゥンメン（日文研外来研究員）

○第156回（11年4月7日）

『When Did the Japanese Start Writing Books on Japan in English? The Strengths and Weaknesses of the First Generation of Native Japan Interpreters』太田雄三（日文研外国人研究員）

○第157回（11年5月12日）

『Self and Society in Ethics of Emptiness: As Seen in a Preliminary Examination of Hisamatsu Shin'ichi and Watsuji Tetsuro』アン・トン・ニス・セビージャ（総合研究大学院大学大学院生）

○第158回（11年6月2日）

『Studying Translations: Then and Now』ヴィシジャ・スリヤカント・テネットイ（日文研外来研究員）

○第159回（11年7月7日）

『To Capture Their Favor: Gift-giving by the Dutch East India Company』シンティア・フィアレ（日文研外国人研究員）

○第160回（11年9月8日）

『Desire and the Civilization: A Political-Economy Inquiry into the Japanese Mind』ロー・ダニエル（日文研外国人研究員）

○第161回（11年10月6日）

『Chinese Portable Movies』パオラ・ヴォーチ（日文研外来研究員）

○第162回（11年11月10日）

『Resistance and Despair: A Speculation on "Pro-Japanese" Discourse in Korea』金 哲（日文研外国人研究員）

○第163回（11年12月8日）

『Chain and the City: Conceptualizing Public Space in Japan』ケン・ダリンスブン（日文研来訪研究員）

○第164回（12年2月2日）

『Japanese Women through the Prism of Proverbs』ギータ・A・キニ（日文研外来研究員）

○第165回（12年3月8日）

『Masterworks of Ukiyo-e in an Australian Collection』ギャリー・シエムズ・ヒッキー（日文研外国人研究員）

○第166回（12年4月5日）

『An Other Other? The Qur'ān, Islam, and Religious Identity in Modern Japan』ハンス・マーティン・クラマー（日文研外国人研究員）

○第167回（12年5月10日）

『Tukioka Kogyo and the Popularization of Noh in Modern Japan』リチャード・J・スメサースト（ビッツバーク大学教授）

- 第168回 (12年6月7日)
『Taisho as Interwar: Reflections on Japan in the History of the Modern World』フレデリック・ディッキンソン (日文研外来研究員)
- 第169回 (12年7月5日)
『Archetypes in Japanese Films: The Wanderer Archetype from Myth to Street』アンドリヤナ・シヴァエトロビッチ (日文研外来研究員)
- 第170回 (12年9月6日)
『Shinto and Shamanism: The Indigenous Religions of Japan and Mongolia』ソヨンボ・ボルジギン (日文研外国人研究員)
- 第171回 (12年10月4日)
『Noh Drama as a Vehicle for Spreading Shintoism and Buddhism in Medieval Japan』クラティラカ・クマラーシンハ (日文研外国人研究員)
- 第172回 (12年11月8日)
『Aloha Buddha and Bounty Zen: Global, Transnational, and Ethnic Buddhism in a Hawaiian Diaspora Context』ヨルン・ギロブ (オーフス大学准教授)
- 第173回 (12年12月6日)
『Common Points between the Classical Martial Art of Japan and the European Art of Fighting』カセム・ズガリ (日文研外国人研究員)
- 第174回 (13年2月7日)
『Kyoto's Old Cherries are More Beautiful than the New: How and Why?』ウィーベ・カウテルト (日文研外国人研究員)
- 第175回 (13年3月7日)
『Inspiration and the Languages of Contemporary Music』林志宣 (日文研外国人研究員)
- 第176回 (13年4月11日)
『UNESCO Comes to Kagoshima: Ritual, Depopulation, and the Problem of Intangible Cultural Heritage』マイケル・ディラン・フォスター (日文研外国人研究員)
- 第177回 (13年5月9日)
『Uncanny Realism: Mimesis and Metamorphosis in Japanese Theatre and Beyond』マーク・ローディ・ポールトン (日文研外来研究員)
- 第178回 (13年6月6日)
『Childbirth and Women's Health in Heian and Kamakura Japan』アンナ・アンドレーワ (日文研外国人研究員)
- 第179回 (13年7月4日)
『Hara Setsuko's Screen Career: The Intersection between Eternal Virgin and Eternal Madonna』マッツ・カールソン (日文研外来研究員)
- 第180回 (13年9月5日)
『The Birth of Mutual Recognition: European and Japanese Visual Images of Each Other during the Edo Period and the Quest for Generalization』ロテム・コーネル (日文研外来研究員)

○第181回（13年10月3日）

『Transgressive Readers and Writers: On the Japanese-Language Literature of Brazil』エドワード・トーマス・マック（日文研外来研究員）

○第182回（13年11月7日）

『Narrative Agency in 13th-14th Century Chan Figure Painting: a Study of Hagiography-Iconography Text-Image Relationships』マルコム・マクネル（日文研英国芸術・人文リサーチカウンシル研究員）

○第183回（13年12月5日）

『Animism for Modernity: Lessons from Minamata for the Post-Fukushima World』シユウコ・ミネヤマ（マデレード大学シニア講師）

○第184回（14年2月6日）

『Spring and Asura: Buddhist Progressivism in the Taishō Era』シホ・ムズ・マーク・シールズ（日文研国際交流基金フェロー）

○第185回（14年3月6日）

『Forgotten Treasures of Meiji Japan: The Nuremberg 1885 Exhibition Revisited』シビル・ギルモンド（日文研外来研究員）

○第186回（14年4月3日）

『Religion and Community in Kyoto: The Gion Matsuri and Chōnaitai』エリザベッタ・ホルク（日文研外国人研究員）

○第187回（14年5月8日）

『Reflections on “Japanese” Culture in Transnational Communication as Seen through Representations of “Kawaii”』高馬京子（日文研外国人研究員）

○第188回（14年6月5日）

『Mori Arinori's Journey to St. Petersburg in 1866: Images of Western Backwardness and Threatening Modernization』ブリーナ・コヴァルチュク（日文研外国人研究員）

○第189回（14年7月3日）

『Transcultural Encounters: German Beer and Meiji Japan』ハラルド・フース（日文研外国人研究員）

○第190回（14年9月4日）

『SuperNATURAL Japan: Digging Out the Embedded Cultural Realities in Japanese Fairy Tales』ゲルガナ・ストコヴァ（日文研外国人研究員）

○第191回（14年10月2日）

『Yashiro's Details and the Problem of Place』望月みや（日文研外国人研究員）

○第192回（14年11月6日）

『Tree Blossoms and Rock Gardens: On the Diakity of the Japanese Sense of Beauty』エツリア・シャロンドン（日文研外国人研究員）

- 第193回 (14年12月4日)
『Rethinking the Concept of New Religions in Japan: the Case of Agonshu』ケン・アレクサンダー (立命館大学フュロー)
- 第194回 (15年2月5日)
『The Circuits of Production, Distribution, and Consumption as a Possible Narrative within Japanese Art History: Some Preliminary Considerations』ガルシア・ロドリゲス・アマウリ・A (日文研国際交流基金フュロー)
- 第195回 (15年3月5日)
『Music as Representation: Thoughts and Remarks on Japanese Fluxus』ルチアナ・ガリアーノ (日文研外国人研究員)
- 第196回 (15年4月2日)
『Proselytizing in the “Western Paradise”: Pan-Asianism to Pacifism in Nipponzan Myōhōji』ランジヤナ・ムコパディヤーヤ (日文研外国人研究員)
- 第197回 (15年5月7日)
『Early Izumo, from the Upper Paleolithic to the Kofun Period』リチャード・トランス (日文研外国人研究員)
- 第198回 (15年6月4日)
『“Female” Presence on the Stage of the ALL-Male Traditional Japanese Theatre』ガリア・トドロヴァ・ペトコヴァ・ガブロフスカ (日文研外来研究員)
- 第199回 (15年7月2日)
『Toward the Reexamination of Universality: Indian Inspiration for Hori Shitoku and Fellow Meiji Buddhist Clerics Opposed to Marriage』ル・モール (日文研外国人研究員)
- 第200回 (15年9月3日)
『Reading Tanaka Kotaro, Re-thinking Japanese Studies: Thoughts on Universalism and Particularism』ケビン・ワーク (日文研外国人研究員)
- 第201回 (15年10月8日)
『Japanese Local Community: Structures, Characteristics, and Resources』マヤ・ケリヤン (日文研外国人研究員)
- 第202回 (15年11月5日)
『Tsuda Sokichi's View of Cultural Development: Japanese Literary History Rewritten in the Postwar Period』一瀬陽子 (大阪府立長尾高等学校非常勤講師)
- 第203回 (15年12月3日)
『The Flying Octopus Story: Japanese Traditional Kite Culture and Its People』ラリ・セシル (日文研外来研究員)
- 第204回 (16年2月2日)
『Shichifukujin : Seven Gods of Good Luck and Humor in Japanese Religious Painting』アグネセ・ハイジマ (日文研日本学術振興会研

究員)

○第205回 (16年3月3日)

『Tanoshikatta ne? Learning to be Happy in Japanese Preschools』トヤン・ペンアリ (日文研外国人研究員)

○第206回 (16年4月7日)

『Enjoying Haku as It Is: A Vietnamese View』グエン・ヴァー・クイン・ニュー (在ホーチミン日本国総領事館広報文化班アシスタント／日文研外国人研究員)

○第207回 (16年5月12日)

『The Relational Self: Nature and Society in the Philosophy of Watsuji Tetsurō』デビット・ジョンソン (ボストンカレッジ助教授／日文研外来研究員)

○第208回 (16年6月1日)

『Celebrity Creativity: Picturing Women Film Directors through Historical Perspectives and Contemporary Themes』イヴォンヌ・タスカ (イースト・アングリア大学映画学教授兼人文学部長)、北浦寛之 (日文研准教授)

○第209回 (16年7月7日)

『Reconsidering Mircea Eliade: Politics of Religious Studies and the Morphology of Religion』クリストファー・レーリック (日文研外来研究員)、磯前順一 (日文研教授)

○第210回 (16年9月8日)

『Looking for 'Correct' Knowledge in Early Edo Japan: Baba Nobutake's Critic and Defense of Various Theories (Shosetsu bendan 諸説辨断, 1715) and Its Context』マティアス・ハイエク (パリ・ディドロ大学准教授／日文研外国人研究員)

○第211回 (16年10月6日)

『The Poetry of Takarabe Toriko: Elegies of Children, Women and War』バーバラ・ハートリー (タスマニア大学校シニア講師／日文研外国人研究員)

○第212回 (16年11月2日)

『The Rise and Fall of Kinoshita Keisuke's Films: Critical Perspectives』マッツ・カールソン (シドニー大学シニア講師／日文研外来研究員)

○第213回 (16年12月8日)

『Nature as Master? Exploring Affect, Environment, and Shinto-Buddhist Traditions in the Craft of Japanese Bamboo Basket Making』ジョアンナ・マッカラム (ファルマス大学イノベーション&リサーチ・アカデミー大学院博士課程／日文研英国芸術・人文リサーチカウンシル研究員)

○第214回 (17年2月2日)

『Family Memories in Place, Time, and Motion: The Kōfukujī Nan'endo and Its Buddhist Icons』詹晏怡 (カンザス大学博士候補者／総研大研究生)

○第215回（17年3月2日）

『Consume or Perish!: Making of Consumer Society in Interwar Japan』
ヤン・シーコラ（カレル大学准教授／東アジア研究所副所長／大阪
大学招聘教授）

『レクチャー』

○第121回（09年4月8日）

『How to Publish Your Manuscript』ウィリアム・ハメル（ハーバード
大学アジアセンター出版部編集委員）

○第122回（09年11月11日）

『日本宗教研究をめぐって』ジャクリーヌ・ストーン（プリンスト
ン大学教授）

○第123回（09年11月20日）

『一九二〇～三〇年代中国におけるピアブリーの受容と上海のデカ
ダンス文学』周 小儀（北京大学教授）

○第124回（09年12月11日）

『現代中国の仏教と仏教研究』張 文良（中国人民大学准教授）

○第125回（09年12月21日）

『中央アジア・ソグディアナにおける仏教遺跡と美術』アブデウラ
エフ・カジム（ウズベキスタン科学アカデミー考古学研究所指導研
究員）、バルダエフ・ムフトルクル（ウズベキスタン科学アカデミー

考古学研究所指導研究員）

○第126回（10年4月6日）

『ヨーロッパにおける国制史の現状』ヴィルヘルム・ブラウネーダー
（ウィーン大学教授）、屋敷二郎（一橋大学大学院法学研究科准教授）

○第127回（10年11月19日）

『禅とテロリズム―血盟団事件を中心に―』ブライアン・ヴィクト
リア（アンティオク大学教授）

○第128回（11年5月20日）

『禅と西洋形而上学の解体』ハヨ・クロンバッハ（ロンドン大学講師・
研究員）

○第129回（11年6月24日）

『念仏のペルソナ』マーク・ブラム（ニューヨーク州立大学オール
バニー校教授）

○第130回（11年6月25日）

『再検証『戦後知の可能性』（安丸良夫他編著）』安丸良夫（一橋大
学名誉教授）

○第131回（11年7月27日）

『日英関係と汎アジア主義の挑戦 一八九五～一九五六』アントニー・
ベスト（ロンドン大学上級講師）

○第132回（11年10月7日）

『日本帝国における植民地化―朝鮮半島と琉球』與那覇潤（愛知県

立大学准教授)

○第133回 (12年2月1日)

『引揚げ―帝国と冷戦のはざままで』バク・ユハ (世宗大学教授)

○第134回 (12年7月18日)

『薔薇と桜―日本研究の現状と課題』大貫恵美子 (日文研外国人研究員)

○第135回 (12年9月28日)

『へ間』の場―相互干渉・相互浸透の場 国際間における現代の比較思想』橋 稔 (ウーイン大学専任教授)

○第136回 (12年12月3日)

『一九四〇年前後の朝鮮への日本人観光・観光促進と同化政策のはざままで』ケネス・ルオフ (ポートランド州立大学教授)

○第137回 (12年12月15日)

『ウズベキスタンにおける近年の考古学調査』アムルディン・ベルディムロドフ (ウズベキスタン考古学研究所所長)、ゲナディ・ポゴモドフ (ウズベキスタン考古学研究所上級研究員)

○第138回 (13年3月14日)

『一九世紀後半の英国における日本仏教認識』ルチア・ドルチェ (ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS) 准教授)

○第139回 (13年5月16日)

『Fascist Spain and the Japanese War Efforts, 1937-1945』ロレンティノ・

ロダオ・ガルシア (マドリッド・コンプルテンセ大学准教授)

○第140回 (13年8月8日)

『The Iconology of 14th-16th Century Japanese Ink Painting with Focus on Sesshu's Landscape Scroll of the Four Seasons (in English)』アグネセ・ハイジマ (日文研外国人研究員)

○第141回 (13年11月28日)

『伊勢神宮遷宮―古代制度のおもかげを見る―』石野浩司 (皇学館大学神道研究所客員研究員)

○第142回 (13年12月11日)

『Rethinking the Body and Eroticism in Classical and Medieval Japanese narratives』ラジャシュリ・パンディ (ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ教授)

○第143回 (14年5月7日)

『謡曲における親子に関する表現』シリモンポーン・スリヤウランパイサーン (チュラーロンコーン大学准教授)

○第144回 (14年8月21日)

『試練多き道を歩んで―セルビアにおける日本学の過去と今』ダリボル・クリチュコヴィチ (ベオグラード大学准教授/日文研来訪研究員)

○第145回 (15年3月20日)

『「女性お笑い芸人」という存在―男性中心のお笑いの世界で女性は

人を笑わせることができるか―』ティル・ワインガートナー（イン
ディペンデント・スカラー）

○第146回（15年12月10日）

『皆川淇園―その教育者・思想家としての位置づけ―』W・J・ボート
（ライデン大学名誉教授）

○第147回（16年3月18日）

『Global Mission: Catholic Imperial and Spiritual Networks in India and
beyond (16th-18th c.)』イネス・ズバノフ（フランス国立科学研究セ
ンターシニアフェロー）

○第148回（16年12月21日）

『Japan's Perennial New Man: The Liberal and Fascist Incarnations of
Rōyama Masamichi』ロイ・スターズ（オタゴ大学准教授）

○第149回（16年12月12日）

『職場の歴史』とはなにか?』竹村民郎（元大阪産業大学教授）、
古川誠（関西大学准教授）

〔東京講演会〕

○第17回（08年6月7日）

『日本のジャズ喫茶文化―反懐古趣味の視点』マイク・モラスキー（ミ
ネソタ大学教授）

『武士道と現代』笠谷和比古（日文研教授）

○第18回（09年6月6日）

『新世紀の生存論理―グローバルゼーションと民族問題―』趙政
男（高麗大学校教授）

『日本の仏教を見直す』末本文美士（日文研教授）

○第19回（10年6月5日）

『蒋介石と日本―友と敵の狭間で―』黄 自進（日文研外国人研究員）
『石原莞爾と東京裁判―満州事変主役はなぜ裁かれなかったのか―』
牛村 圭（日文研教授）

○第20回（13年7月6日）

『志賀潔と朝鮮』松田利彦（日文研教授）
『革命の語り方』井上章一（日文研副所長）

〔学術講演会〕

○第40回（07年7月13日）

『宮沢賢治の作品に見られる「自己犠牲の精神」「不殺生」と「菜食
主義」―インド人の観点から―』ブラット・アブラハム・ジョージ
（ジャワハルラル・ネルー大学准教授／日文研外国人研究員）

『二一世紀の生命観を求めて―重層する危機のなかで―』鈴木貞美
（日文研教授）

○第41回（07年11月16日）

『科学へのまなざし―ことばの視点から日本の近代科学を考える―』

新井菜穂子（日教研准教授）

『日本神話と長江文明』安田喜憲（日教研教授）

○第42回（08年3月13日）

『中世史研究四十年―天皇家はなぜ続いてきたのか―』今谷 明（日教研教授）

『世界地図に日本像はどのように認識されてきたか』千田 稔（日教研教授）

○第43回（08年9月18日）

『文学の所有』をめぐる、ひとつの物語』山田奨治（日教研准教授）

『福沢諭吉の倫理観における「公」と「私」』猪木武徳（日教研所長）

○第44回（08年11月27日）

『マドレーヌ・デ・スクデーリ（一六〇七―一七〇二）と鶴殿余野子（一七二九―一七八）―近世女性作家の書簡感性をめぐる―』マルクス・リュッターマン（日教研准教授）

『江戸時代の比丘尼御所の世界―信仰に身を投じた四人の皇女たち―』パトリシア・フィスター（日教研教授）

○第45回（09年3月11日）

『ハイデガーとマクルーハン…技術とメディアへの問い』合庭 惇

（日教研教授）

『中国の五大小説』井波律子（日教研教授）

○第46回（09年9月30日）

『立憲政治と政党政治―伊藤博文の遺産―』瀧井一博（日教研准教授）

『日系ブラジル人の短歌と俳句』細川周平（日教研教授）

○第47回（10年3月16日）

ジェームズ・バクスター教授退任記念講演会

『価値観と報酬―野球、経営、教育の日米比較―』ジェームズ・バクスター（日教研教授）

『欧米で日本陶磁器はいかに愛好されたか？―19世紀後半の趣味の変貌と、世紀末芸術の誕生―』稲賀繁美（日教研教授）

○第48回（11年3月10日）

『京都・一〇一一年…一条天皇最期の日々』倉本一宏（日教研教授）

『欧州情勢は「複雑怪奇」だったのか？―独ソ不可侵協定締結と日本―』戸部良一（日教研教授）

○第49回（11年9月29日）

『小笠原諸島の自然と文化―世界遺産から未来へ―』郭 南燕（日教研准教授）

『明清交替と東アジア』伊東貴之（日教研教授）

○第50回（12年3月23日）

『「神都」物語り…明治期の伊勢について』ジョン・グリーン（日教研教授）

『環境考古学への道』安田喜憲（日教研教授）

○第51回（12年6月29日）

『江戸時代の僧伝出版と清初仏教』榎本 渉（日文研准教授）

『四国の山村で日本文化を考える―いざなぎ流研究四〇年―』小松和彦（日文研所長）

○第52回（13年3月8日）

宇野隆夫副所長・鈴木貞美教授退任記念講演会

『私の未来の人文学―考古学GISから時空間情報科学へ―』宇野隆夫（日文研副所長）

『日文研の二五年を振りかえって』鈴木貞美（日文研教授）

○第53回（13年5月22日）

梅原猛先生米寿記念特別講演会

『私の学問と芸術』梅原 猛（日文研顧問）

○第54回（13年9月6日）

『古地図とナビゲーション技術』森洋久（日文研准教授）

『知らず顔の桐壺院―〈園外〉の源氏物語論』荒木浩（日文研教授）

○第55回（14年3月18日）

白幡洋三郎教授・戸部良一教授退任記念講演会

『太平洋戦争を考える』戸部良一（日文研教授）

『山と島―日本庭園の源流と日本の自然観』白幡洋三郎（日文研教授）

○第56回（14年6月25日）

『日本映画の黄金期と斜陽期―テレビ産業との攻防の中で』北浦寛

之（日文研助教）

『文化の法律はどう作られるべきか？―著作権法を例に考える』山田奨治（日文研教授）

○第57回（14年9月25日）

『徳川将軍の外交儀礼 一八五七―一八六七』佐野真由子（日文研准教授）

『和歌をうたう―モダンイズムとジャポニズムをむすぶ和歌歌曲―』坪井秀人（日文研教授）

○第58回（15年3月25日）

笠谷和比古教授・末木文美士教授・早川聞多教授退任記念講演会―江戸を語る―

『江戸時代の新しい歴史像を求めて』笠谷和比古（日文研教授）

『思想史からみた近世』末木文美士（日文研教授）

『江戸絵画に見る表裏一体の表現』早川聞多（日文研教授）

○第59回（15年6月10日）

『オランダ商館長の将軍謁見』フレデリック・クレインス（日文研准教授）

『天は球いか平たいか―地動説理論と佐田介石（一八一八―八二）との格闘―』マルクス・リュッターマン（日文研准教授）

○第60回（15年9月10日）

『春画を見る、艶本を読む―近世から現代まで』石上阿希（日文研

特任助教)

『松島詩子コレクション』について―戦前ジャズ・タンゴ歌手の興行』細川周平(日文研教授)

○第61回(16年3月14日)

光田和伸准教授退任記念講演会

『吉田・鳩山・岸の時代―一九五〇年代の日本外交』楠綾子(日文研准教授)

『神々は出雲に帰る―「邪馬台国」と『水底の歌』に及ぶ』光田和伸(日文研准教授)

○第62回(16年6月28日)

『徳川時代から発想する―経済・教育・防災―』磯田道史(日文研准教授)

『支え合う近代―文化史から見る日中二百年―』劉建輝(日文研教授)

○第63回(16年9月14日)

『中世東シナ海の航路を守る神』榎本涉(日文研准教授)

『戦争の日本史』倉本一宏(日文研教授)

○第64回(17年3月9日)

『上方喜劇の現代性―曾我廼家劇から松竹新喜劇まで』古川綾子(日文研特任助教)

『日本の大衆文化とキリスト教』井上章一(日文研教授)

〔特別講演会〕

○国際日本文化研究センター創立20周年記念講演会(07年5月21日)『二〇年をふり返って』梅原猛(日文研顧問)

『日本近代化論再訪』ロナルド・ドーア(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス特別研究員)

○片倉もとこ先生退任記念講演会(08年5月29日)『「らーは」の世界―フィールド・ワークの旅から―』片倉もとこ(日文研前所長)

○日文研・地球研合同シンポジウム「山川草木の思想―地球環境問題を日本文化から考える」(08年6月21日)

『天文本覚論と環境問題』梅原猛(日文研顧問)

○京都の文化と環境―水と暮らし―(09年5月9日)

『京都盆地の地形環境を読む』宇野隆夫(日文研教授)

『京の庭園と水』白幡洋三郎(日文研教授)

『京の人と水―湧水・地下水』谷口真人(地球研教授)

『京の水と暮らし』秋道智彌(地球研教授)

○日文研・地球研合同シンポジウム「京都の文化と環境―森や林―」(10年5月22日)

『地球の森世界からみるモリの日本』山田勇(地球研共同研究員)『近代日本の自然観を反省する』末木文美士(日文研教授)

- Tokyo Public Lecture: 文化勲章受章記念講演会（10年6月11日）
 『人類の遺産―徳川日本の宗門改帳―』速水 融（日文研名誉教授）
- 日文研・地球研合同シンポジウム「環境問題はなぜ大事か―文化から見た環境と環境から見た文化―」（11年5月21日）
 『貿易と環境問題』猪木武徳（日文研所長）
- 『持続可能な発展を再考する―復旧・復興・新興』立本成文（地球研所長）
- 『煙たい月は泣いているのか？』荒木 浩（日文研教授）
- 『人のいる自然・人のいない自然』阿部健一（地球研教授）
- 猪木所長退任記念講演会（12年3月29日）
 『日文研で感じたこと、考えたこと』猪木武徳（日文研所長）
- 日文研・地球研合同シンポジウム「文化・環境は誰のもの？」（12年9月14日）
 『中世の「物」および「universitas/communitas」をめぐる』マルクス・リュッターマン（日文研准教授）
- 『「人類の無形文化遺産」になった祇園祭―文化は誰のものにされようとしているのか―』佐野真由子（日文研准教授）
- 『里山の生態系サービスと今後の国土管理』嘉田良平（地球研教授）
- 『分かちあう豊かさ―環境と文化』阿部健一（地球研教授）
- 特別講演会「映画史の中の太秦」（14年11月11日）
 上野隆三（東映京都撮影所殺陣師／東映剣会特別会員）
- 大野裕之（日本チャップリン協会会長／脚本家・プロデューサー）
 小川順子（中部大学・大学院准教授）
- 小松和彦所長文化功労者顕彰記念講演会（17年3月28日）
 『妖怪と戯れて四〇年―私の学問人生―』小松和彦（日文研所長）
- 『伝統文化芸術総合研究プロジェクト』
 ○邦楽と西洋音楽を超えて（08年2月15日）
 《講演》
- 『伝統文化と現代―多元的グローバリズムを目指して―』
 笠谷和比古（日文研教授）
 《ワークショップ》
- 『能管と西洋管弦楽との統合、そして超越』
 作曲・楽曲解説…武内基朗（作曲家）
- 能楽囃子と西洋管弦楽との饗宴（09年2月25日）
 《趣旨説明》
- 笠谷和比古（日文研教授）
 《公演》
- 第一部「能楽囃子の伝統的演奏」
 第二部「能楽囃子と西洋管弦楽との協奏」
 囃子方（笛）…杉信太郎
 囃子方（小鼓）…曾和尚靖

囃子方（大鼓）…谷口有辞

囃子方（太鼓）…前川光範

作曲…武内基朗

○二人のマリアと葵上（09年11月27日）

《趣旨説明》

笠谷和比古（日文研教授）

《公演》

「マグダラのマリアと葵上」（新作）

舞…古澤侑峯（地歌舞古澤流家元）

演出、構成…上村敏文（ルーテル学院大学准教授）

作曲…原夕輝

披露…林香純 薫香・香雅流 宗匠

笛…雲龍

ディジュリドゥ…KNOB

アフリカ民族楽器：Yasushi

協力…大内山香雅 薫香・香雅流 家

○謡曲と西洋管弦楽との協奏の試み―『平家物語』『祇園精舎』を

主題として―（10年2月17日）

《趣旨説明》

笠谷和比古（日文研教授）

《解説》

『謡曲による『平家物語』『祇園精舎』』

笠谷和比古（日文研教授）

『謡曲と西洋管弦楽による『平家物語』『祇園精舎』』

武内基朗（作曲家）

○能楽と西洋管弦楽との協奏―能「小鍛冶」を題材に（11年2月23日）

《趣旨説明・解説》

『能の構成と音楽的性格』

笠谷和比古（日文研教授）

《公演》

『西洋管弦楽法による能「小鍛冶」』

演奏者…武内基朗（作曲家）

○新作能「ルター」（試作）（12年2月17日）

《公演》

解説者…上村敏文（ルーテル学院大学准教授）

実演者（ルター）…上田公威（シテ方観世流）

実演者（キチカエ）…上田拓司（シテ方観世流）

実演者（笛）…竹市学（笛方藤田流）

実演者（地謡）…上田大介 外4名（シテ方観世流）

実演者（創案）…上村敏文（ルーテル学院大学准教授）

実演者（監修）…大倉源次郎（小鼓方大倉流十六世宗家）

コーディネーター…笠谷和比古（日文研教授）

○『忠臣蔵』の世界（13年2月28日）

《講演》

『赤穂事件と『忠臣蔵』の世界』

笠谷和比古（日文研教授）

《公演》

『仮名手本忠臣蔵』三段目「殿中刃傷の段」

実演者（義太夫）…竹本相子大夫

実演者（三味線）…竹澤團吾

○ルネサンスダンスと筑前琵琶による「安寿と厨子王」

（14年3月26日）

《趣旨説明》

『日文研伝統文化プロジェクトの現在』

笠谷和比古（日文研教授）

《座談会・楽器説明》

コーディネーター…門田展弥（追手門大学地域文化創造機構客員特別教授）

ルネサンスダンス…湯浅宣子（欧州舞踏史学協会会員）

琵琶奏者…S・ギニャール（大阪学院大学教授）

リュート奏者…佐野健二（相愛大学非常勤講師）

ダルシマー奏者…小川美香子

《公演》

ダンス…湯浅宣子、村上博子、小原麻美

構成・演出…門田展弥、湯浅宣子

作曲…S・ギニャール、P・アテナニャン、門田展弥

筑前琵琶…シルヴァン・旭西・ギニャール

リュート、ヴィオラダ・ガンバ…佐野健二

ダルシマー…小川美香子

○能楽と西洋オペラとの統合の試み―楽劇『保元物語』をめぐる―

（15年2月17日）

《講演》

『楽劇『保元物語』と制作趣旨』

笠谷和比古（日文研教授）

《公演・解説》

『オペラ版『保元物語』の楽曲解説と演奏』

武内基朗（作曲家）

「日文研・アイハウス連携フォーラム」

○第1回（14年9月19日）

『妖怪と日本人の想像力』小松和彦（日文研所長）

○第2回（14年12月11日）

『越境する「大衆文学」の力―なぜ中国で松本清張が流行するのか』

王成（清華大学教授／日文研外国人研究員）

○第3回（15年2月12日）

『江戸時代にみるユーモア、パロディ、タブー―浮世絵と春画の社会的意義』アンドリュース・ガーストル（ロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）教授／日文研外国人研究員）

○第4回（15年4月21日）

『ぼくは何故「まんがの描き方」を海外で教えるのか』大塚英志（まんが原作者／日文研教授）

○第5回（15年7月16日）

『伊藤博文を越えて、伊藤博文へ―「知の政治家」の残したもの』

瀧井一博（日文研教授）

○第6回（15年12月10日）

『世界文学としての『源氏物語』』李 愛淑（国立韓国放送通信大学教授／日文研外国人研究員）

○第7回（16年2月10日）

『イタリア演劇から見た日本の伝統演劇 能、歌舞伎、オペラ、バ

レエ―狂乱』ものを中心に―』ボナヴェントゥーラ・ルベルティ（カ・フォスカリ大学教授／日文研外国人研究員）

○第8回（16年7月27日）

『川端康成文学と中国美術』周 閔（北京語言大学比較文学研究所教授／日文研外国人研究員）

○第9回（16年10月14日）

『海賊史観からみた世界史五〇〇年―『文明の海洋史観』の裏側を覗く』稲賀繁美（日文研副所長／教授）

○第10回（17年1月20日）

『志賀直哉の文学・外国語からの養分』郭 南燕（日文研准教授）

○日文研・アイハウス連携フォーラム in 京都（17年3月7日）

『移動する帝国』――戦時観光と絵葉書』ケネス・ルオフ（ポートランド州立大学教授）

『従軍画家が描いた帝国のフロンティア』劉 建輝（日文研副所長／教授）